

様式1

平成17年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 所属 教育学部附属幼稚園
代表者氏名 尾形敬史

下記の本年度の社会連携支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40字以内)

地域をフィールドにして親子で豊かな体験を積み重ねる日(地域の日)の実践

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先: 茨城大学, 茨城県近代美術館, 日本農業実践学園, 茨城県立図書館, 茨城県立中央青年の家, スポーツ施設など

連携内容: (1000字以内、連携の方法、内容、計画、期待される成果等を具体的に明記)

子どもを巡る社会は大きく変化し、社会の育児機能や教育力が低下してきている。そのため子どもたちが社会の中で健全に育ちにくくなり、育児不安を抱える親も多くなっているという現状が見られる。

そこで、本園では親子で自分たちが住んでいる地域の自然や人、場所に目を向け関心をもってかかわることができるよう教育課程に「地域の日」を位置づけ年4回体験的な活動を展開している。今年度は①「身近にアート」(美術館でのワークショップ) ②「きらめき自然体験」(自然観察やネイチャーゲームを取り入れた活動) ③「どきどき体験」(科学的な実験や工作) ④「うきうきファンタジー」(図書館での活動、人形劇や読み聞かせ) ⑤「元気にスポーツ」(サッカーやスケート、ウォークラリー) の5グループがあり、親子の興味関心に応じてクラスの枠を越えてグループを編成している。

この活動は、幼児にとって地域の中にはいろいろな所があることや様々な人々がかかわっていることなどを、体験を通して学んでいく大切な場となっている。また、教師や保護者同士が触れあい、語り合い学び合うことで、自分の子育てを振り返り余裕をもって子育てができるよう支援する役割を担っているといえる。さらに、親子で地域に出かけることで地域の人が幼稚園に関心を寄せたり、特技や技能をもつ人が活躍し充実感を感じる場となることで地域との連携を深め、地域に貢献できる幼稚園として期待が高まっている。

申請分野 1 地域の教育力 2 地域環境形成、自治体との連携 3 産官学連携 4 学術文化 5 その他の地域との連携

3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績（別紙可）

「地域の日」の体験活動がきっかけとなり、公民館、美術館、図書館などの公共施設の様々な催しに積極的に参加する人や地域のスポーツ施設などでいろいろな運動に親しむ者も見られるようになった。その結果、地域社会の教育力を積極的に高めてきている。

園の環境としては、クラスの枠を越えての活動により、教師も親も子も交流が深まり、話しやすい雰囲気づくりに役立っている。

4. プロジェクト参加者（含む申請者）

氏名	学部・学科等	職名	分担内容
尾形敬史	教育学部附属幼稚園	園長	全体把握
福田洋子		副園長	連絡調整及びグループ運営
神永直美		園内教頭	担当グループの活動企画運営
近藤祥子		教諭	担当グループの活動企画運営
橋本祥子		教諭	担当グループ活動及び全体の企画運営
倉橋優子		教諭	担当グループの活動企画運営
平野有佳子		教諭	担当グループの活動企画運営
笹川まゆみ		養護教諭	担当グループの活動運営
淀縄弥生		講師	担当グループの活動運営
齊籐由佳		講師	担当グループの活動運営
磯敦子		講師	担当グループの活動運営